



2014/12/1 No.67

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

児童心理治療施設（情緒障害児短期治療施設）の創設について



常務理事

井本 義孝

千葉県は全国で大阪、東京、に続き児童虐待件数が三番目に多いことは案外知られていない。二〇一三年度に全国の児童相談所が対応した児童虐待の相談件数は約七万四千件に達している。時代の波に翻弄されるのは、いつも子どもである。今は昔、七十年前戦禍におびえ、学童疎開、食糧難による飢えと、はじめの経験者は大方高齢者となった。今や少子超高齢社会、デジタル機器が世を覆いパソコンなくては暮して行けそうもない様相を呈し、幼子もTVやゲーム機と共に成長する現状ではある。家庭の状態も都市化が進み、核家族より単身世帯が世帯形態の中で二十五％を超えるようになり、安定した家庭生活を過ごすことの困難な子どもが増加していると言われる。児童虐待の相談件数は一九九〇年では一、一〇一件であり約二十五年間で約七十倍になっている。

虐待を受けた子どもは精神的に深い傷を残し、様々な心理的不調を起こすため、本人を

支援する様々な方策がとられなければならない。被虐待児だけの対応のみでなく、不登校、引きこもり、チック、多動性障害、等家庭ではその改善が困難な児童を対象として一九九一年に情緒発達のための環境整備とメンタルケアを目的としてこの児童福祉施設は法制化されたのである。児童福祉法第四十三条の五に「軽度の情緒障害を有する児童を短期間入所させ、又は保護者のもとから通わせて、その情緒障害を治し、併せて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする。」と規定されている。千葉県には県立に富浦学園や生実学校がありますが、標記施設機能を具備していない。又、今日まで首都圏に於ける標記施設の設置状況は神奈川県をはじめ全て設置されており、ひとり千葉県の①受託法人がない。②医師不在を理由として開設されていないのが実情である。

本法人はそのような本県の現状に鑑み、去る十月の評議員会及び、理事会に於いて標記施設の開設の必要性を認めこの実現を決議するに至りました。ここに至るまでにはその前段の搖籃期とでも名付けた期間がありました。旧足立区健康学園の土地約九千平方メートル、建物面積延約三千平方メートルの取得が必要でした。既に数年前に人手に渡っておりましたが、天の配剤とも言ふべきか、私下に価格を下回る六、七八〇万円で入手できた。のぞみ会は

五十二年前に千葉県唯一の婦人保護施設望みの門学園を開設し、今新たに一県一ヶ所の「児童心理治療施設」を創設しようとしている。そのため理事会は「プロジェクトチーム」を設置し、ハードとソフトの両面につき鋭意推進することを決定した。

のぞみ会はこれまで神の導きを信じ開拓的事业に取り組んできた。この事業が次代を担う子等のために役に立つよう、皆さまのお祈りを心からお願いする次第です。

第二回望みの門実践発表大会

望みの門福祉学校 校長 佐野 毅

昨年度に引き続き、今年度も「望みの門実践発表大会」が行われました。

望みの門は現在、乳児・児童・高齢者・障害のある方、婦人保護、そして相談支援、在宅介護支援、訪問看護と、八つの種別・十五事業所と実に多岐にわたる総合福祉施設となり、そこに従事する職員も二七〇名を超えるまでになりました。ですので、法人内でそれ違って「この方は、顔は見たことはあるけど、一体どこの施設の職員だったけ？」といったこともしばしば見られるようになってきました。そこで、望みの門の各施設・事業所が、普

段どのような仕事をしています、利用者さんへの介護・福祉サービスの向上を図るためにどのように努力しているのか、といった日頃の取り組み状況について、一堂に会し発表し合うことを目的として開催しました。



昨年の第一回大会では、望みの門紫苑荘の「リハ・レク体操」の取り組みが評価されて最優秀賞を受けました。

今年度の第二回大会では、望みの門デイサービスセンターが「選ばれるデイサービスセンターでありたい」というテーマで、職員一丸となって利用者サービスの向上に取り組んだ成果が評価を得て最優秀賞となりました。

この実践発表大会は今年度でまだ二回目ですが、回を重ねるごとに、職員の「発表する技術・テクニク（プレゼンテーション力）」が着実に向上しているように思います。

また、職場の環境改善や利用者サービスの向上を図るために、各施設の良い取り組みを

参考にして自分の施設でもやってみよう、といった相乗効果も生まれています。

切磋琢磨という言葉がありますが、この実践発表大会を通じて望みの門の各施設の職員がお互いに刺激し合い成長する場となるよう努めてまいります。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家

マナの家の軽井沢物語



生活指導員 水野 真理

八月二十九日から三十一日にかけて寮生と共に恒例の軽井沢旅行に出かけました。新幹線で約一時間、午前中にはもう軽井沢に到着。別荘に荷物を置いてから軽井沢銀座に行くことになりましたが、ユニオンチャーターやテニスコートを通り過ぎてなかなか目的地に着きません。一本、道を間違えたことがわかり、途中のイタリアンのお店でランチをしてから気分も新たに出発!!

念願の軽井沢銀座に着くと寮生たちは楽しそうにお喋りしながら、気に入ったお店探しが始まりました。汗をかくこともない快適な空気のなか、いろいろなお店をのぞきながらブラブラ歩きは避暑地ならではのものではが、寮生もそうした雰囲気を楽しんだのではないだろうか。

その後は国内最大と言われるショッピングモールへ。ここでも気の向くままに歩きまわり、夕食はモールの中のレストランでいただきましたが、寮生が「日々の糧」を歌い始めたのにはビックリ!!日々歌っている食前の歌が旅行中にも継続されたことに驚き、何か温かい思いに包まれた感じがしました。

夜は別荘の玄関横の灯りが消えると漆黒の闇の世界が広がります。すぐ側を流れる矢ヶ崎川の水音以外は何も聞こえないなかでの花火大会は、寮生はもちろんのこと職員も童心に帰って大いに楽しみました。

翌日は夜半に降った雨がうそのように晴れて、寮生のリクエストでまたもや軽井沢銀座に。楽焼のマグカップを作ったり、名前入りの箸を買ったり、とびきりおいしいホットドックを食べたりして、あっという間に夕暮れになり、夜は「トンボの湯」に浸かり、その後は軽井沢高原教会のキャンドルナイトへ…。盛り沢山なスケジュールでし



たが、消灯時間もなく、行きたいところに行き、食べたい物を食べて、寮生たちは大満足だったことでしょう。

「来年も行きたいね」という寮生の言葉に職員も大満足な三日間でした。

婦人保護施設 望みの門学園

引き継がれている琴指導

作業指導員 天野 典子

学園は創立以来、利用者の生活向上を目指して、お茶・生け花・踊り・気功・お琴等たくさんのクラブ活動がありました。その指導には、たくさんの方々、ボランティアとして関わって下さいました。生け花は学園の玄関や食堂を飾り、お茶は法人のバザーの時、一服の癒しとなりました。踊りは盆踊りやフォークダンスを楽しみました。気功はみんなの運動不足解消に役立ちました。しかし現在は、ボランティアの方の事情によりそれぞれ自然解消してしまいました。

その中でお琴だけは、今も受け継がれています。最初は飯田良重先生がお琴を集めることから始められました。知り合いに声かけし、一台一台と譲ってもらい、今では七台あります。中には焚きつけにしようとして割った琴を寸前で貰い受け、ボンドで修復した琴もあり

ります。先生は、八十才を過ぎても松戸から往復六時間かけて来てくださいました。「これが私の楽しみの一つなのよ。」と嬉しい言葉を口にされていました。



当時は習っている利用者も多く、敬老会等の発表の場もありました。発表会が近付き「お琴練習してね」と声掛けをする、と、三階から「シャンシャンテン」と琴の音色が聞こえてきました。

今は長司佳子先生に引き継がれました。残念なことに琴を習っていた利用者の多くが学園を退所し、現在は二名のみです。一人は先生から習い始めました。とても練習熱心で、今では先生と合奏が出来る腕前です。先生は「私は二人が待っていてくれるなら行きます。」と稲毛から来て下さっています。有難い事です。これからも宜しくお願いします。



養護老人ホーム 望みの門 楽生園

楽生園に来て



支援員 鈴木みつ江

介護保険制度に沿って出来た施設で働いてきた私が、措置施設である養護老人ホームに勤務して「介護員から支援員」利用者様からは「ヘルパーさんから寮母さん」に変わり、七か月が過ぎる今、ほんの少し流れに乗れてきた感じがします。苦手も多く苦戦してるのが文章作成やケアカンファレンス、モニタリングの記入、パソコン、コピー機、ファックス等の操作するのが苦手で機械オンチでもコピーやファックスはせざるを得ずクリアしましたが、出来ませんでは通用しなくなるであろうパソコンに手が出ないのが現状であり、課題です。今は一日の流れと注意すべき点を頭に入れた事に繋がらないように努力しています。

楽生園には「自治会」がある事や、



また、利用者様が永眠なされた折には、利用者様と職員参列にて最後の「お別れの会」があることは今までに経験がなかったことでした。様々な事情により入居された皆様が、笑顔で穏やかな日々を過ごせますよう努力いたします。

特別養護老人ホーム 望みの門 紫苑荘

私に出来ること



栄養士 星野沙也加

今年の五月一日付で、楽生園から紫苑荘へ異動となり早七ヶ月が過ぎました。今までは隣の施設である楽生園に四年間勤務していましたが、紫苑荘の利用者様との直接的な関わりはあまりなく、異動当初は期待よりも果して自分に務まるのだろうかという不安な気持ちの方が大きかったように思います。

実際に紫苑荘に勤務するようになり、以前は見えていなかった紫苑荘の利用者様の姿を知ることが出来ました。

特別養護老人ホームということで、食事の介助が必要な方も多く、食事形態も常食からペースト食まで様々です。食事の入ったワゴン運びながら、実際に食事を召し上がったという姿を拝見するうちに、利用者様お一人お一人の個性や好き嫌いも徐々に分かるように



になりました。お野菜が苦手な方やお粥を残しがちな方もおり、どのようにしたら少しでも口にしていただけるのだろうかと考えながら日々接しています。食事の様子も目によって異なります。普段自力摂取をされている方でも、その日の体調によってはスプーンを持てずに摂取出来なかったり、なかなか嚥下が出来ないときなどがあります。たとえば些細な変化でも、それは利用者様にとってのひとつの意思表示であり、私たち職員はその意思表示を読み取り、臨機応変に対応することが必要なだと再認識しました。

まだまだ未熟な点が多いですが、紫苑荘の職員として、また栄養士として、私には何が出来るのか、何をすべきなのかということに常に念頭に置いてこれからも利用者の方々に喜ばれる食事の提供に努めていきたいと考えています。

特別養護老人ホーム 望みの門 富士見の里

ユニットケアに携わって

介護員 白井 政子

落葉に過ぎ行く秋を感じる今日この頃ですが皆様お変わりないでしょうか。

富士見の里も開設され早二年四か月が過ぎました。

開設当初は職員もバタバタと気忙しく動いており入居者様にもご迷惑をおかけしてきましたが漸く富士見の里らしく軌道に乗り始めたいと思います。

一階多床室三十名、ショート十名、二階ユニット和十名、雅十名、悠十名、計七十名おり、日々の生活を援助しています。毎月の誕生会、(誕生食)年間行事(ユニットと合同)ではボランティアの方々に参加していただいたりして楽しんでもらっています。

また、ユニットに於いては毎月一回お菓子作りや讃美歌サークルなどメリハリのある暮らしをしています。また中庭に花を植える季節を感じてもらい花の好きな方は観察をしたり育て方のアドバイスもしてきます。

入居者様も私達を家族同様に慕ってくれるので不平不満もストレートで投げかけてきます。こちらも試行錯誤の繰り返しで対応しています。私の所属する和ユニットですが男性

六名、女性四名で生活、援助しています。

朝の起床は全

員を一度に起こす事なく入居者の生活のリズムで起きてもらいます。その後整容を随時行っています。十人十色といいますがそれぞれ施設に入所する前は自

分の生活のペースがあった訳ですからそこを重視し日々の状況を詳しく観察しながらサポートしています。二十四時間シートという個別の起床・就寝・夜間帯の記録をまとめたものを作り、他部署の職員が来てもすぐ解る様に利用し変化に応じて更新しています。ほぼ自立が難しい方が殆どです。

自分から発する事がままならない入居者様の気持ちを汲み取るケアを目指していきたいと思っています。

昨年はノロウイルスの蔓延で入居者様も大変辛い数か月を過ごしました。

今年も既に去年の二倍と云われています。また繰り返す事の無いように常日頃より感



染予防に努め職員も自己管理を怠らずにしていきたいと思っています。

老人デイサービス事業 望みの門 デイサービスセンター
 デイサービスの
 一年を振り返って

介護員 在原 礼子

デイサービスセンターは、年中無休で皆さんにご利用頂いております。

提供するサービスは、アンケートをもとに入居者様の希望をリストアップして、毎月旬の楽しい行事を企画しています。

一月は初詣、二月はたこ焼きパーティーや、太巻き寿司と天ぷらパーティー、四月はお花見お食事会、九月はぶどう狩り、今月二十日

にはみかん狩りを予定しております。残念ながら参加出来ない方は、デイサービスでレクリエーションを行ない、楽しんで頂いております。

毎週月曜日



は、午後からカラオケ好きの方々が集まり、自慢の歌を披露して頂いております。以前はカラオケを行なっても数名の方の参加でしたが、現在ではほとんどの方々が歌って下さるようになりました。月に一回、日曜日にカラオケ大会も行なっております。

外食送迎では、毎回十名ほどの参加があり、今月はここにしよう、来月はあちらがいいんじゃないかとお食事処を開拓するのも、職員の重要な任務です。

お買い物ツアーも利用者が楽しみにされている行事のひとつです。買い物がしたくても一人では行けない方が多く、皆さんとても楽しんでおられます。ですが、つつい買い物をしすぎる事もあるので要注意です。

また、刺し子、パッチワークなどの手芸は一年を通じて行なっています。いずれも一日で仕上がる物ではありませんので、刺し子やパッチワークをする為にいらっしゃる方々も多いです。出来上がりに満足され、家族に見せてあげたいと喜んでいるお姿を見ると、私達もとても嬉しく感じます。

利用者様の年齢は六十代から九十代後半の方までいらっしゃいますが、皆さんお話が弾み、とてもお元気なので、職員も元気を頂いております。来年は今年以上に皆さんに楽しんで頂けるような行事や慰問を考えていきたいと思っております。

訪問看護ステーション 望みの門訪問看護ステーション

あつとゆう間の十ヶ月

看護師 鴛田みどり

望みの門訪問看護ステーションにて勤務させて頂いております。鴛田みどりと申します。入職してからあつとゆう間に十ヶ月が過ぎようとしています。

病院勤務の経験しかなかったが、訪問看護に興味があり入職しました。病院では患者様が来院、医師の指示があり治療等を行います。そのため一人一人の患者様のケアに行き届かない所がたくさんあります。

訪問看護で

は、利用者様は住み慣れた御自宅で安心して生活できるよう、主治医、関係者の方々と連携をとり適切な判断に基づいたケア、アドバイスを『利用者様一人一人に合わせた、看護の提供』が出来ます。大



切な事はご本人、ご家族との信頼関係を深めることです。

コミュニケーションがとれることによってよりよい看護の提供ができると思います。

訪問看護を始めて大変だったことが、富津の道がまったくわからないことでした。ようやく慣れて周りの景色が見えるようになりました。

富津の景色の良さ、山方面に行けば四季を感じる山の色、海方面に行けば、天候の良い日は、海のキラキラした景色、富士山もくつきりと雄大な姿を見せ、とても素晴らしいものです。これも訪問看護でしか味わえない事だと思っております。

このような事に感謝しております。

まだまだ勉強不足ではありますが、笑顔で安心感を持って頂けるよう支援させて頂きたいと思っております。

今後とも宜しくお願い致します。

就労継続支援事業 望みの門新生舎

社会学習旅行



職業支援員 大貫砂登子

前日まで台風の影響によって天気予報は傘マーク。当日の天気がどうなるかとても心配されましたが、日頃の行いが良いのでしょうか

天気は大きく崩れることなく社会学習旅行当日を迎える事が出来ました。

今回の旅先は東京ディズニーシー！行先が発表された時から皆ワクワクしていて「ジェットコースターに乗りたくない！」「ミッキーに会いたい！」等々、毎日東京ディズニーシーの話で持ち切りでした。

そして当日。いつもの出勤より少し早めの集合時間にも遅れる人は一人もなく、予定していた全員がバスに乗り込みます。ガイドさんの「おはようございます。」の声に利用者のみんなも元気に応えます。とっても嬉しそうな笑顔です。

さて、この社会学習旅行は日頃の労をうのはもちろんですがボーナスの支給もこの旅行に合わせて行い、半年間頑張った証として一人ひとりにボーナスが手渡されます。

このボーナスを基に参加費用や昼食代お土産代を自分の働いたお金で賄うの



です。毎日休まず出勤し、毎月皆勤賞をもらった人もいれば休むことが多くやっとボーナス支給の対象となった人もいます。それぞれが頑張った分だけ受け取った時の喜びは大きい様です。受け取ったボーナスを自分で数え、参加費用と小遣いを分けてさあ出発！

この日のディズニーシーはクリスマスマスのイベントが始まったばかりということもあり相当な混雑が予想されていました。どの班も限られた時間の中で思いっきり楽しむ為に、どこから行こうか作戦を立てていました。スリルあるジェットコースターを一番に目指して行く班、先ずは食事や買い物を楽しむ班、沢山の乗り物に乗る班等々、一日ゆっくり過ごすことが出来ました。しかし、社会学習旅行は楽しむことだけが目的ではありません。人混みの中できちんと順番を待つことが出来たり、集団で行動する中、他の人に迷惑をかけるい等、沢山のルール・マナーを守る必要があります。幸い利用者全員がルールやマナーを守り、仲間に思いやりを持って接することができた事はとても良い経験になり、本当に楽しい社会学習旅行となりました。

日頃の作業を毎日一所懸命に取り組み、その働いたお金で楽しい一日を過ごす利用者には満面の笑みがこぼれます。「また来年も来ようね！」「とお互いが励まし合っている姿や「来週も頑張るぞー！」「と意気込みを見せる

人もいて共に働く職員として何か利用者から教えられた様な気がします。

また来年も皆で行けるように頑張ろうね！

共同生活援助事業 グレースホーム

グレースホームの年間行事を追って



世話人 角谷 幸子

余暇活動は日々の暮らしに変化を持たせ、豊かな生活の実現を図るためにも非常に大切なものとなっています。グレースホームの余暇活動の取り組みは様々ですが、今回は年間行事を追いつながらグレースホームの余暇について紹介したいと思います。

四月……春は恒例となっている富津公園での花見会です。早速満開の桜の木の下にシートを敷きお花見弁当に舌鼓を打ちます。やはり花より団子です。腹ごしらえを済ませたら健康のためにウォーキングで運動不足の解消です。利用者さん全員心地良い汗を流し、明日への英気を養います。

五月……ゴールデンウィークは自宅へ帰省する方とホームに残留する方に分かれますが、残留する利用者さんを対象とする外出を企画します。のんびりと買い物や食事、次なる楽しみは昼食です。利用者さんの希望を募って、和・洋・中華と何でも揃ってい

る「食べ放題の店」で思い思いにお皿を重ねていきます。利用者さんの旺盛な食欲にはいつも感心させられます。連休明けは、また頑張るぞ！

七月……利用者さんが一番楽しみにしている一大イベントの一泊親睦旅行があります。今年は養老溪谷・マザー牧場の旅です。初日はみんなで温泉に入り、宴会ではちよっぴりお酒を飲みながら好きなカラオケで大いに盛り上がります。場所が変わり、普段ホームでは見ることが出来ない利用者の姿があります。また、利用者さんの悩みや相談事などを聞ける良い機会となっています。辛いこと、苦しいことがあっても負けないぞ。

八月……お盆休みも自宅へ帰省する方とホームに残留する方に分かれますが、残留する利用者さんを対象とする食事がありません。今年は割烹料理店で行いおいしい料理と



カラオケ歌い放題で大いに盛り上がりました。十二月……一年を締めくくるグレースホーム全員参加の忘年会です。例年、井本常務理事にご参加を頂き利用者さんに声をかけて頂きます。

一月……お正月休みにはいろいろの事情で自宅に帰省が出来ない利用者さんを対象として残留者一泊旅行を企画します。今年も二日・三日の予定で富津市内の有名旅館で実施する予定です。家庭で過ごすお正月にはかなわないと思いますが世話人さんと過ごすお正月も楽しいですよ。

また、年間の行事とは別に、毎月グループ別に外食会等を計画し地域での生活に積極的に取り組む機会を設けています。少人数のグループ外出では買い物をすることも大きな楽しみの一つです。特に女性の利用者さんは洋服選びをするとき等、時間や疲れを忘れてしまいうほどです。

利用者さんの笑顔は、私たち世話人にとって大事な仕事の糧となります。「利用者さんの幸せとは何か」を常に考えつつ、日々利用者さんが健康で心穏やかに過ごすことが出来るよう願ってやみません。



紅葉狩り



管理者 藤崎 美智

地域活動支援センターとしての望みの門ヨカデイサービスセンターでは、社会適応訓練として、季節に合わせた外出を計画しており、毎年十一月は紅葉狩りが恒例の行事になっています。

さて、紅葉を見に行くことを何故、「紅葉狩り」というのでしょうか？ちよっと調べてみました。「狩り」という言葉の意味は『獣』をつかまえるという意味が、『小動物・野鳥』を捕るという意味に広がり、さらには、『果物』を『採る』といった意味になり、やがて『草花』を眺めたりする意味にも使われるようになったとのこと。実際に古語辞典にも『狩り』は「求めてとった」、鑑賞したり



すること」として記載されており、昔はよく使われていたのかもしれませんが。

昔の貴族の中には「狩り」をしない者がでてきたため、自然を愛でることを狩りに喩えたという説。また、紅葉した木の枝を折り、葉を手のひらにのせて鑑賞したという説があるようです。

さて、紅葉狩りの語源はともかく、今年も紅葉狩りを十一月二十六日に計画しています。ここ二、三年は志駒紅葉ロード方面へ、ドライブがてら色づいた風景を観るために出かけています。

今年の紅葉の見頃は、九月の気温がいつもより低かったことから、例年より五日ほど早いという予報でした。果たして散らずに待っていてくれるでしょうか？ 昨年は紅葉狩り直前に大嵐があり、黄色く色づいた銀杏の葉が散ってしまった場所もあったので少し心配しています。しかし、利用者みなさんはドライブの後の食事が紅葉以上に楽しみなようです。

「言(こと)とはぬ木すら、春咲き秋づけば、もみち散らくは、常を無(な)みこそ」、大伴宿禰家持(おおとものおのすくねやかもち)が万葉集で歌った一句です。物言わぬ木でさえ、春には花を咲かせ、秋には紅葉して葉を散らせる。この世に変わらないものは何一つないという意味のこと。私たちの住む日本には春夏秋冬

冬という四季があり、季節の移ろいに様々な想いをよせて生活しています。この世の変わらないものは何一つないとしても、この季節の変化を楽しむゆとりが、生活に豊かさをもたらしてくれるのだと思います。私もヨカデイサービスセンターの皆さんと錦秋の秋を楽しみたいと思います。



相談支援員助手 玉手 匠

私は今年の四月よりミッドナイトミッションのぞみ会に就職し、計二か月間の各施設(デイスービスセンター、楽生園、方舟乳児園、かずさの里、新生舎)での研修をさせてもらい、六月より中核地域生活支援センター君津ふくしネットで相談支援員助手として働かせていただく事になりました。君津地区(富津市、君津市、木更津市、袖ヶ浦市)を二十四時間体制の地域福祉の総合相談窓口として二〇〇四年十月より、事業を開始している為、日々多くの機関からの相談、連絡、調整等があり、当事者さんからのつらい悲しい悩みの相談や障害をお持ちの方の話し相手等もあります。

その現状の中、私は、社会人として、福祉

従事者として、望みの門として、君津地区の住人としても一年目であります。

働く上で、日々、あの時何をしたら良かったのだろうか。何を考え、言動すれば良かったのか。私の考え方は少しおかしいのではないかなど、疑問や不安、不満が募り、多くの質問と私の考えを西山センター長をはじめ、多くの大先輩の方々に話し、助言を頂いています。私はとても助かります。そして安心出来る自分自身がいます。

常にこの安心感のある環境での、日々の電話での相談、当事者さんとの話し合いの場に参加する事で、「話したら安心しました」、「今月も来ているね」と声をかけてくれます。その言葉で私も「聴いていて、ここにいて良かった」と安心します。

この安心感、相談者共、相談者共に今ここの生活をしていく人として、心の大きな支えとなり、とても大切な気持ちであると、改め



て実感してきたこの頃です。

誰もが日々の生活の中で、様々な生きづらさを抱える中で、安心出来るまでには多くの困難な事があると思います。まだちっぽけな私の力ですが、少しでもの安心に繋がり、支えになれる様に精一杯取り組みたいと思っています。

富津市富津地区地域包括支援センター 地域と一手を取り合っ

相談支援員 川口真紀子

富津市より委託を受け富津地区地域包括支援センターが開設されてから早いもので八ヶ月が経ちました。私は包括の三職種の中の保健師または経験のある看護師等として、介護予防プランの作成や介護予防指導等を行っております。

現在、急速な高齢化や認知症を有する高齢者の増大に伴い、医療・福祉や地域との連携が求められるようになり、ケアの質の向上や人材育成が重要となっています。

認知症を発症しても、できる限り自分の家で発症初期から終末期まで一貫してその人らしく生活することができるよう、本人と家族の心理や環境調整等を学ぶにあたり認知症コーディネーター養成講座研修に参加したい

と考えていました。

富津市より一名が選抜され、この度受講させていたことが出来た。

十一月十一日に念願であった認知症コーディネーターの仲間入りをすることが出来

ました。一人でも多くの方々に認知症の事を理解してもらい、認知症の人とその家族が地域で孤立しないような環境が整えられるよう、共に努力していきたいと思っています。

また認知症キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を定期的に開催できたらと考えています。

包括内では常に報告、連絡また助け合いの精神で業務が円滑に行えるよう努力しています。地域に根ざした手を携える包括となれるようにしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。



児童養護施設 望みの門かずさの里

目指した仕事に就いて

児童指導員 中村 朋美

私が、児童養護施設の仕事に就こうと考えたのは、高校生の頃でした。保育園・幼稚園のような日中のみの限られた時間での関わりではなく、共に生活していくという施設と知り、働いてみたいと思ったのが始まりでした。

私は、大学在学中に二度、児童養護施設で実習をしました。実習生での体験と職員との動きがあまりにも異なることに驚きました。児童養護施設の厳しさや難しさについては、大学の授業や実習を通して、知識として受け止めていました。

が、実際の仕事は遥かに難しくもあり、遣り甲斐を感じました。また、

職員の役割、その責任の重さについて改めて気付かされ、叱咤された思

いです。そして、目指した児童養護施設である、かずさの里



に就職して半年が過ぎました。毎日の生活が子どもとの関わり葛藤の連続です。掃除・洗濯、子ども同士の口論の仲裁など一般家庭同様の暮らしと、大所帯ならではの出来事が続いています。

こうした営みの中で子どもたちの思いを知り、信頼関係が徐々に築かれている実感があり、大切な過程なのだと感じています。

私は、子どもたちには将来に繋がる生活習慣や豊かな感情表出を身に着けて欲しいと思っています。日々の生活を通し、自然と伝えていければと考えていますが、実際にはどのような手段・手法で伝えていけば良いか、私自身ジレンマを抱えています。私の振る舞いは、子どもたちにとって正しいのか、良い影響を与えているのか。無意識に子どもを傷つけていないかと一日を振り返り、反省の日です。ですが、先輩職員に相談をしたところ、先輩方もそれぞれに悩みがあり、葛藤があることを知り、ほっとしました。自分一人で子どもを支えるわけではありませんが、先輩職員との語りで、改めて職員全員で支え、育てていく大切さを確認出来た気がしました。まだまだ、未熟な指導員ではありますが、先輩職員の仕事を見て学び、自分のスキルアップに繋げ、子どもたちとの関係性をより深めていければと思います。

乳児院 望みの門 方舟乳児園

Merry Christmas



児童指導員 井本 義樹

この冬、望みの門 方舟乳児園に六回目のクリスマスがやってきます。まだクリスマスやサンタクロースの意味もよくわからない子どもたちの元へ、毎年サンタさんは大きな袋を担いでやってきてくれます。あの子には何がいいのかな？この子はこれが好きだったな。みんなで遊べるかな？と、サンタさんとプレゼントを相談する大人の顔は自然とニコニコ笑顔になります。大人にとっても子どもにとっても楽しく嬉しいクリスマスがやってくるのです。

先般、厚労省が平成二十五年の児童相談所（全国二〇七カ所）で受けた総相談件数が七万三千件を超えたと発表しました。相談件数は増加の一途を



たどり、千葉県では四五六一件、千葉市の八一三件併せて五三六四件と五〇〇〇件を超える数字となっています。年々増加する数字に現代社会の抱える暗さを感じる一方で、今まで顕現化していなかった子どもたちの不適切な関わりに対して、社会や大人が関心を持ち警戒をした結果が、相談件数の増加につながったとも考えられるのではないだろうか。社会や大人の子どもの不適切な関わりは多くのが、不適切な関わりを意図的にしようとしたのではなく、結果として不適切な関わりになってしまったことの方が多くのように感じます。誰もが誰に対しても適切な関わりをしようとした時、それを適切に行えるように支援してくれる社会、もしくは社会構造を構築することが現代社会の急務であり、社会福祉法人に課せられた使命のひとつと考えています。クリスマスの幸せなひと時がどの子どもどの家庭にも等しく与えられますように。

Merry Christmas.

児童家庭支援センター 望みの門 ピーターパンの家

里親支援を通じて思ふこと

相談員 福原 麻衣

三月に大学の心理学部を卒業し、四月から通称「ピーターパンの家」で相談員をしてい

ます。電話・来所相談、家庭訪問における支援の仕方、またセンター一階に設けられたフリースペースに来る利用者への対応などまだまだ慣れないことも多く、日々の業務を通して学ぶことの多さを痛感しています。「里親支援」もその中のひとつです。

みなさんは「里親」と聞くと何を想像しますか。「養子縁組」という言葉は知っているとありますが、「里親制度」とは本来の養育者にならなくて一定の教育を受けた「里親」がその子の養育を担う制度です。委託を受けた後に養子縁組をする場合もしない場合もあります。

私はこれまで、里親制度について研修会で学ぶ一方、里親子の相談面接やキャンプ等の里親会行事への参加、支援者や里親向けの研修会等様々なことに関わってきました。その中で委託される「里子」のみならず、受け入れ側の「里親」

自身にも様々な思いがあり、その人やその家庭なりの難しさを抱えているのだという事が見えてきました。里親さんの中には、「自分の子育てが落ち着



いたところでもう一人育ててみたい」、「子どもと接する機会が欲しい」、「困っている子供を助けたい」等それぞれの想いを抱え、またそれぞれに独自の家庭文化を持っています。

当センターでは、委託を受けて子育ての難しさや迷いを感じている里親さん、また委託待ちの状態が続いて不安を募らせている里親さん等、それぞれの話を聞き、支援の方向性を探っています。社会的養護下にある子どもたちにとって、とても重要な役割を果たしている里親制度。繰り返し出会う中で、子ども達の成長していく姿を見たり、里親側の変化や発見について話を聞く機会がありました。

里親家庭とは、子どもたちが適切な家庭生活を体験する中で家族のありようを学び、社会性を養うとともに生活技術を身につける大切な場所です。しかし、委託される子どもたちもそれぞれの小さな歴史の中で、大人に対する不信感を募らせたり、将来に対する希望を失ってしまっている場合も多く、その新しい環境に適応することが難しい子どももいます。社会的養護とは、子どもを抱えた里親さんが一人で頑張るものではありません。私たち支援者もその大切な伴走者だと考えます。これからの児童家庭支援センターの大切な業務の一つである里親支援の充実に努めていきたいと思っています。

児童養護施設 望みの門かずさの里

2014 かずさの里 感謝祭〜お礼

施設長 戸波 宏幸

去る十一月三日、上総湊地区での望みの門の感謝祭（かずさの里感謝祭）が行われました。天候が心配されましたが、当日は快晴となり、多くの方々に足を運んで頂きました。幼稚園・学校関係、地域の各会等々の皆様お一人お一人から声を掛けて頂き、改めて地域との結びつきの大切さ、有り難さを感じました。バザー、模擬店への献品・売り上げへのご協力、またボランティアでの協力、改めて感謝申し上げます。



編集後記

衆議院が解散し総選挙に突入する。確かに解散の決定権は首相にあるのだが「何故このタイミングで？」感がぬぐえない。師も選挙カーも走る師走になりそうである。のぞみ会に新たなミッションが与えられた。改めて創立の精神に立ち返りしっかりと備えをなしていきたい。救い主イエス・キリストのご降誕の喜びを待ち望みつつ。